

「 命を守るために 」

愛媛県 松山市立南中学校 2年 ^{もりおか}森岡 ^{りん}凜

僕が土砂災害について本当に「怖い」と感じるようになったのは、平成30年の西日本豪雨のニュースを見た時です。テレビの映像には、茶色く濁った土砂が住宅地に流れ込み家が壊れ、道路が寸断され、人々が避難所で不安そうに過ごしている様子が映っていました。あれが日本で、しかも自分の住んでいる県で起きていたということがすごく衝撃的でした。

西日本豪雨は2018年7月に梅雨前線の影響で広い範囲にわたって大雨が降り続いた災害です。特に広島県、岡山県、愛媛県で記録的な大雨になり、多くの土砂災害や川の氾濫が起きました。たくさんの方の命が奪われ住む家を失った人もいました。僕はその時まだ小学生でしたが、「雨ってこんなに怖いものなんだ」と感じたことを今でも覚えています。

僕の祖母の家は山の近くにあります。いつもは静かで自然豊かな場所ですが、大雨の時は土砂災害の危険があると聞いています。祖母は「昔から山は怖い所で、雨の日は注意が必要だよ。」と話してくれました。僕は祖母の話を聞いて、災害は遠い話ではなく、身近な問題だと実感しました。

学校の授業で土砂災害についてくわしく調べる事がありました。土砂災害には主に、がけ崩れ、地すべり、土石流の3種類があり、大雨や地震がきっかけで発生することが多いそうです。西日本豪雨の時も、山のしゃ面が崩れて家の中に土砂が流れ込んだり、道路が寸断されたりして、多くの人が逃げ遅れました。

僕の住んでいる地域には大きな川があるので「もしかしたら、同じようなことが起きるかもしれない」と思うようになりました。今まで「うちは大丈夫だろう」と他人ごとのように思っていたけれど、西日本豪雨のような災害は、どこでも起こる可能性があることを知り、災害を自分ごととして考えるようになりました。

まず僕がしたことは、祖母の家の周りのハザードマップを調べることでした。市のホームページを見てみると、僕の祖母の家の近くにも、「土砂災害警戒区域」と書いている場所を見つけました。祖母といっしょに避難場所や避難経路を確認し、「夜に避難する場合はどうするか」や「雨が強まってきたら、どのタイミングで避難を始めるか」など、いろいろなことを話し合いました。

また、僕のスマートフォンには気象庁の防災アプリが入っていて、警報が出た時に、すぐ通知が来るようになっていました。このアプリを使って警報や避難経路を確認するようにしています。特に警戒レベル3やレベル4の時は災害がせまっていて、命に関わる大切なサインだと思いました。

ニュースで見た被災地の人の話の中に、「もっと早く逃げていればよかった。」という言葉がありました。僕はその言葉が印象に残っています。災害はいつ、どこで、どんなタイミングで起こるか分かりません。だからこそ、「まだ大丈夫」と考え行動しないのではなく、「念のために早めに行動する」ことが命を守る大切なことなんだと強く感じました。

さらに、地域の人たちとのつながりも大切だと思います。もし災害が起きたとき、一人で避難するのがむずかしいお年寄りや子供、体の不自由な方がいたら、周りの人が声をかけて助け合わなければいけません。僕自身は、まだ中学生なので、できることは少ないかもしれませんが、避難所でのマナーや災害時のルールなど、知っておくだけでも役に立てることはあるはずです。

土砂災害は、自然の力によって起こるものですが、防ぐことは人間でもできることがたくさんあると思います。砂防ダムやがけ崩れ防止のさく、排水工事など、国や県が行っている対策に加えて、自分たち一人一人が「もしも」を考えて準備しておくことが、最大の防災になると思いました。

これからは、天気予報をよく見るようにしたり、地域の避難訓練に積極的に参加したり自分なりにできることを増やしていきたいと思います。西日本豪雨のような大きな災害を二度とくり返さないために、日ごろからの備えがとても大切だということを忘れずに生活していきたいです。